我が記念品

高等第1学年　佐竹庸

今我が記念品

亡し時て念品が

と記顧京都な

にいた行ふり送地り

漸とな全のきや方そに

つな言ふ快後治うれのに幻れ

旅しの間療┐ば顔去年のるにはあ

聲路山かく其父去ひし夢言てひし父去幻れ方そに

國の野の言全のきや顧父我京品が

家は吾に野の言全のきや顧父我京品が

此の十の吾に野の言全のきや顧父我京品が

机上の一隆を赴の間ふ快後治うれのに都な

上に枚盛はか緑のにしに療┐ば顔送地り

に十のにげれ漸夢言てひし父去幻れ方そに

あ一隆を赴の間ふ快後治うれのに都な

り枚盛はか緑のにしに療┐ば顔送地り

てのにげれ漸夢言てひし父去幻れ方そに

我繪貢まぬくなな歸たて今年のるにはあ

を葉献し。ふりかれす歸體の如繪行一る

励書せ居あかきりりらる常末く葉き昨品

まはんる、く櫻き其父べの上眼書し年は

せ父こなかなのあののし如京前な時亡吾

りのとりなる花、時歸おくせにり及きが

在を故し頃もさのをとなん浮こび父永

る希にい遂ちれ喜待ならとびの昨の遠

時えわかにりどびちしざす何繪秋御に

の り。れな永果そたしくれる事葉病即忘

如 は然へてのとがしばやか書を位る

く 益れにし喜え半てこ我敢を得式べ

今 々どか頃はん年待れにふ見てにか

も 勉もへ病ほにのちよ向るる上列ら

吾 励父ら再んも後居りひに時京せざ

が しのぬ發のの父れ東て似はせんる

京